

**中島** はい、皆さんこんにちは。今日は、2011年3月11日東日本大震災から12年目ということで、いったいどうなっていたのだろうか？あの時、本当に私もいろいろな思いが駆け巡っています。どうしても最近はこのように、悲惨な映像が流れる、津波に巻き込まれていく街みたいなのところが多いですね。そうではなくて、もう12年も経って変わった。素敵な町に変わってきているというものが、なかなか皆さん話題の中に届いてこないということもありまして、今日は南三陸のアドバイザーをしていただいております、宮崎さち子さんにおいで願って、今の南三陸をお聞きしたいなど。同時に、12年間ボランティアとして南三陸へ訪れていたその辺の話もお聞きしてみたいなど思っております。はい、宮崎さんです。

**宮崎** はい、宮崎と申します。よろしくお願いたします。

**いそ** よろしくお願いたします。

**中島** アシスタントというか、一緒にいそかなこさんに参加してもらって、若いZ世代から見た南三陸といますか。そうそう、あなた3.11の時は何歳？

**いそ** 小学5年生だったので、11歳です。

**中島** 11歳。覚えている？

**いそ** 覚えています、覚えています。

**中島** どういうふうに覚えている？

**いそ** 私はその時はまだ学校がぎりぎりあって、三者面談とかそういうことをしている時期で。普通に一人で学校から帰ってきて、本当にあと50メートルくらいで自宅に着くくらいで、ちょうど地震があつて。泣きながら走って家に帰って、パーっと。

**中島** でも家も揺れていたでしょ？

**いそ** 家も揺れていました。でも、家は、わりと全部しっかり家具とかの上にとッパーみたいな全部対策はしてあったので、ちょっと立っていた人形が倒れていたくらいで。大きな

あれは無かったですけど。でも、やっぱりすごく怖かったというのはありますね。

宮崎 東京ですか？

いそ 東京に住んでおります。

宮崎 今大学2年生ですか？

いそ いや、今大学、、

中島 今度4年生、4月から。

宮崎 当時小5？

いそ 小5だと思います。

宮崎 そうなのですね。当時小4だった子と、いまだに地元の最初知り合ったとき小4だった子が今大学3年生で、まだ4年生で。

いそ 同じくらいですね。

宮崎 同じくらいですね。そうか、小5だったのか。

いそ 小5ですね。

宮崎 じゃあ、もう1個上ですね。

いそ ちょっと上ですね。

宮崎 計算間違えました。すいません。

中島 若いと1歳は大変な問題らしいから、僕らとはだいぶ違うんですね。  
どうですか？その当時知り合った小学校4年生だった人は、やっぱりすごく大変なショックを受けた？

宮崎 いや、たぶんあったとは思うのですけれども、私たちからはそんなに垣間見えること

は無かったですかね。たぶん私がこっちにお邪魔させてもらうようになったのが、2011年の5月とか6月とかだったので、直後とはまたちょっと違う雰囲気だったかもしれない。

**中島** でもまだ5月でも全然瓦礫の山が、じゃないですか？

**宮崎** そうですね。一番最初はもっと内陸部の避難所とかがある場所にお邪魔していたので、実は最初の段階ではあの状況は見ていなくて。しばらく経ってから、避難所に避難しておられていた南三陸町の志津川の方から、自分たちの町がどうなったのかをぜひ見てほしいというふうに声をかけていただいて。

ボランティア団体だと6時半とか7時とかからミーティングが始まるので、それまでに帰ってくるっていうので、朝4時くらいに出て、町を往復して帰ってきました。その時に初めてどんな状況かというのを一瞬ですけども見させていただきました。

**中島** 何か目に焼き付いたものはございますか？

**宮崎** 焼き付いたものは、やっぱり一番最初に車を降りた時には朝早かったこともあって、音も無いし、ただテレビでは何度も見ている景色、だけど現実味がまるっきりない世界だったからだろうと後で理由付けしたのですが、降りた瞬間に撮影のセットの中にいるような感覚に陥って、もう、とにかく現実感が無く。あの辺に誰の家が、避難所の皆さんと少し話すようになっていたので、あの辺にはなんとかさんの家があったんだよみたいな。私が町を歩いている中で生々しいと感じたのは、生活用品とかが泥に半分出ているみたいな、お子さんのぬいぐるみとかランドセルがあったりとか。

**中島** よくアルバムの写真が泥でまみれていたという話がね。

**いそ** ありましたよね。映画が。

**中島** そういうことは聞いたことがありますけど。そういう第三者というんですかね、誰かが撮ったもので僕らはネットとかで見ているだけで、実際の生のところ、現地に行ったわけではないので。行かれた動機って聞いてもいい？

**宮崎** 動機ですか？

**中島** そもそもそこへ。

**宮崎** 動機が本当に今でも謎なんですけど。絶対行ったら迷惑をかけるだけだから行かな

いと思っていたので。それが本当に偶然ないろいろなご縁が重なって、気がついたら行くようになっていて、あれれ？というのが、いまだにちょっとあれれ？が残っているんですけど。

**中島** あれれ？でなかなかこの距離からしたら、大変じゃないですか？もうちょっと何かあったんじゃない？突き動かすものがあった？

**宮崎** 本当に、何かたぶん、これ残ったら嫌なんですけど、離れようとすればするほど、どんどんコアな方へ行ってしまう感じがあって。これ後で編集できるんですよ？

**中島** 全部、やります。

**宮崎** 南三陸町長さんにもしよっちゅう、たぶん恐らく被災地市町の中で一番メディアに露出された方ですけど、町長さんからそれはあなた宿命だからって。だからちょっと役割を、役割とかおこがましいんですけど、自分の意図と関係なくそうになっていってしまう感じはありました。でもちょっと今のところはカットしてください、すいません。おこがましいので、とても。動機はそのくらいです。

**中島** ということで、何かのご縁だと思うのね。私もあの時に現地へ行こうと思ったら、もう一つやるのがあって。電力が不足してなんとかしなくてはいけないという問題があったので、だったら、私はそちらの方が少し力がありそうな気がして、現地には行かずに、東京で一生懸命に色々やっていたのです。それも一つのミッションというか、ご縁かなと思って。だから、誰がやれと言うわけではないのだけど、引きずり込まれるようにしてやっていった。そこは気持ちとしては一緒かなという気はしましたね。

そういうこともあったのですが、今日は新しい今の南三陸をご紹介しますよね。僕らは真実をわかっていないので、今日は沢山いただいたので、この辺を見ながら。びっくりしたのですが、ワイナリーができた？元々ワイナリーなんてあった？3.11 の後にできた？

**宮崎** 宮城県というお話だと、震災ですべて壊れてしまったらしく、震災後最初に立ち上げられたのが、仙台から車で30分くらいの秋保、秋保温泉がとても有名だと思うのですが、秋保ワイナリーさんというところが、ワイナリーとして最初にオープンし、そこに弟子入りをされて、秋保ワイナリーさんのご指導の下、どこか別のところからブドウを入れて、秋保ワイナリーさんの施設を借りて、南三陸のワインを作るといようなことをしていて、何年か思い出せないんですけど、南三陸にもワイナリーができて。何年前でしたかね？もう結構経つんですけど、南三陸のブドウでも作りたいねと言っていたブドウがようやくワインに使えるようになって、2021年のワインから南三陸のブドウを使ったワインも仲間入りをし

て、今6種類ですかね。

**中島** そうですか。こういう形で職を作る。働く場と地産で良いものを作って皆さんに良いものをお届けする。これは非常に、地域、町おこしという世界で約に立つやつですよ。

**宮崎** 代表の方もワインが最初というよりも、南三陸の魅力を知っていただくためには何をすればいいだろうというところから入られているので、ワインを切り口に、食材ですとか海に出るツアーとか色々とすごく頑張っているから、すごいなと思って拝見しています。

**中島** ここにもう一つ、食で言うと牡蠣が出てきて、とってもおいしそう。この地区も一回全滅してしまったんですよね？

**宮崎** はい。

**中島** でも今やもうこれだけにおいしそうじゃなくて、おいしい牡蠣を作られるようになって、復興したということですよ？

**宮崎** そうですね。何をもって復興したというかは、よそ者の私には難しいのですが、牡蠣ですと、まっさらに全部なくなってしまって、いろんな浜があるのですが、ある浜ではちょっと過密養殖になってしまっていたので、これを機会に継続、それこそSDGsですよ。ずっとサステイナブルなという視点で新しいやり方を取り入れたところ、どこだったか調べますが、国連関係機関から、ASC とかは聞いたことがありますか？国際認証なんですけど、それにフィットする取り組みだからということで、おつなぎいただいて、ASC という国際認証を取って。

話が拡散しまうのですが、FSC という森の国際認証もあるのですが、南三陸町では森も震災後認証を取って、情報をアップデートできていないのですが、私がお伺いしたときにはASC と FSC を両方持っている町は世界で南三陸町だけ。

**いそ** へーすごい。

**宮崎** で、さらにラムサールも取ったので。

**中島** 自然を上手に使うって、森は海の恋人という、有名な言葉を知ったのですが、森があるからこそ牡蠣が育つ。

いそ そうですよ。森からお水が。

中島 というお話を聞いたことがあって素晴らしいなど。その両方の国際規格というか認証を得ている町というのは初めて。これをもっと宣伝した方がいいですよ。南三陸をね。

宮崎 いや。本当にそう思います。こう分水嶺とか森から。気仙沼の森は海の恋人で有名な方は漁師さんなんですけど、ずっと森の手入れをされていたということで。

中島 そう。あの本を何冊か読ませていただいて、感動していました。宮崎さんの話に最後に戻すと、12年間、毎月1回？ではない？

宮崎 まあ平均するとそのくらいに。

中島 平均すると。その粘り強さは素晴らしいよね。

宮崎 コロナ化とは全然いけていなかったですけど。

中島 コロナはね。皆さん動けないのだけど。いそさんのお友達も南三陸にすごく関係している人をご存じと聞いたのですけど。

いそ そうですね。幼少期にすごくお世話になったお姉さんが5個上くらいなんですけど。震災が終わってすぐにボランティアに行かせていただいて、すごく感銘を受けて、すぐ大学卒業して、南三陸に住みたいということで、2017年から移住されて、農協とか漁師とかのお仕事を一緒にやって、今、現地の方と結婚されてという方がいらっしやって。Facebookの情報とか見ているとすごくアクティブに活動されていて、素晴らしいなど尊敬しているお姉さんなんですけど。

中島 そのお姉様は都会育ちの方なんでしょう？

いそ そうですね。そのお姉さんは東京。

中島 東京の人が、南三陸に住むというのは大変な部分はないんですか？南三陸に嫁ぐというか。もちろん、その旦那さんが魅力的だから行かれたんでしょうけど。東京の人が南三陸へお嫁さんへ。東北地区はお嫁さんが少ないじゃないですか。南三陸に呼び込みたいわけよ。

いそ でも本当に南三陸町のために何か自分ができることはないかということで、すぐ大学を卒業していったのが、

中島 あ、ボランティアで行ったのが、先で、嫁に行くためではなかった。

いそ 違います。

中島 で、良い人にも出会えてしまった。

いそ たまたまです。

中島 それで、お子さんも。

いそ お子さんもいらっしゃる。

中島 地域町おこしの素晴らしい。

いそ そうなんです。個人でも発信されていたりとかテレビでもちょこちょこ紹介に出られて、すごく根性があるお姉さまがいらっしゃる。

宮崎 私の友人も、ボランティア仲間が地元の方と結婚して、お子さんも生まれましたね。

中島 人の出会いというのは、すごく大事で、同じ苦労というか一緒に作業をして、仲間と  
いうか、心が通じていくんでしょうね。きっと。で、若い男女だと結ばれると。素晴らしい  
ですね。

それでこれだけ魅力的ですごく良くなってきたので、我々は怖い思い出を、何十回、何百  
回と津波にさらわれる町ばかり見させられてきて、ちょっとトラウマになっているところ  
があるのだけど、それよりもこれからの人には、きれいな自然のまち、南三陸町に来てもら  
って、出会いを求め、男性が行ったら女性もいるんだよね。独身の。

いそ 出会いもあるかもしれないですし。

中島 町おこしになっていくと良いかなと。僕は本当にそのお友達にしても宮崎さんにし  
ても、そこに出かけて行く行動はものすごく大事で、働きながら行かれていますし、素晴ら  
しいなと思いますけど、それを持ち上げるのではなくて自然な行動で人として行ってきた  
と言われる宮崎さんは素晴らしいと思います。ぜひぜひ皆さん、南三陸まちに。

宮崎 南三陸町。

中島 南三陸町。失礼しました。

いそ 間違えないように。

中島 そこをカットして。宮崎さん、最後に何かありますか？

宮崎 はい、たぶん沿岸部の色々な伝承館的なところの中でも、割と最後の方に完成した、去年の10月に完成している南三陸町の伝承館に「南三陸311メモリアル」というところがあるのですが、割と遺構みたいなのところが多いのですが、ここはそういうのはほとんどなくて、経験をされた方が、当時のことをお話しして下さっている映像を見て、ところどころで近くに座っている方と「あなたならどうする？」というような結論のない、もやもや感みたいなものを抱えて帰る。それがずっと今後の課題のことを考えるために大事なんじゃないかというちょっと他の伝承館と少し色合いが違う伝承館になっているので、機会があればぜひ。

いそ いいですね、こういうのを知る、実際にそこに足を運んで証言という、話を聞くという機会が、知るということが大事ですね。

中島 まさしくこのシンラボでやっている今回のSDGs展も、ここで絵を見ていろんなことを感じて、考えて、自分事として考えて語ってみようというのがここの企画の一つです。

宮崎 かさなりますね。

中島 これはずばり当たっていますね。当たっているというか一緒ですね。そういう意味で今日は宮崎さんに来ていただいて、大変ありがとうございます。

宮崎 いえいえ。稚拙なお話で。

中島 どうも皆さん、ありがとうございました。ぜひ南三陸町に行きましょう。ありがとうございました。

宮崎、いそ ありがとうございました。